

ママの笑顔が、子どもを伸ばす
きもちがラクになる子育て雑誌

[エデュ]

edu

2012

7&8

小学館
定価 ¥780



佐藤初女さんから
あなたにアドバイス

よかれと思ってやったことが
かえって子どもの成長を
妨げることがあります

知らず知らずのうちに奪っていませんか？

子どもの「成長の芽」

- チャレンジする力
- 考える力
- 会話力
- 人から愛される力



7&8月号と9月号を連続ご購入の方に希望者全員サービス
川島隆太先生、深谷圭助先生の「edu 自学自習ノート」

読者150名をご招待
東京 陰山英男先生の講演会、大阪 朝倉仁先生の親子算数授業

入学準備プレedu
子どもはママの声が好き！

思春期edu
後悔しない高校受験

【今回教えてくれた人】

次世代ゼミ ファインズ 代表・中野耕治 なかの・こうじ
教務部長・岩本 努 いわもと・つとむ

東京、神奈川などに展開する進学塾。「生きる力」を養い「考えられる」人間を育てるという理念のもと、受験のハウツーだけでなく、幅広い指導を行っている。

後悔しない高校受験

7つのポイント



ここ数年で、全国的に様変わりしている高校受験制度。思春期の不安定な時期と重なる高校受験は、家庭による適切なサポートが欠かせません。小学校のうちから知っておきたい、受験を乗り切る心得をご紹介します。

ママの時代とは違う
高校受験のいまどき事情

これまで思春期エデュでは、全国各地の最新受験の現状取材してきました。その結果わかったのは、ママの時代の受験知識はほとんど役に立たないということです。

学力低下の問題を受けて、全国的に公立高校では受験制度改革が行われています。たとえば、理数や英語など専門コースの設置、特定教科の得点の加重評価(※)、進学校における独自試験問題の作成など、合否は内申点より試験当日の点数を重視する傾向が高まっています。また、学区域が見直された地域も多く、人気校では他地域からの受験者が増え、倍率が上昇しています。絶対評価の導入により、高校が内申点を「信用できる情報」ととら

えにくくなり、試験得点重視の傾向に拍車がかかっています。

私立高校の状況もママの時代とは大きく変わっています。たとえばかつて公立のすべり止め程度だった学校が、共学化、進路指導の徹底などの「営業努力」の結果、有名大学の合格者を多数出すほどの進学校になっている場合もあります。また、優秀な生徒獲得のため、複雑な受験制度を独自に設けている学校も多く、志望校の受験情報は早めに収集、理解しておく必要があります。

このように状況は様変わりしています。わが子の受験を機に改めて親子で話し合い、よりよい進路を選び取っていかねばなりません。そこで今回は激変する高校受験を、親子で乗り切るための心得や、効果的な勉強法を取材してきました。



※ たとえば総得点の中で英語の得点を重視するために、英語の点数だけ1.5倍にして計算するといった方法。



準備の時期から学習法まで 知っていると知らないとでは大違い。

3 行きたくない学校を 第2志望にしない



志望校を決める段階では、第2志望以降の学校選びは慎重に。合格は確定だけど、「行きたくない」学校を選ぶ人は多いものです。しかしそれでは、第1志望に落ちたとき、「こんな学校にしか入れなかった」という思いが強く、入学後学校をやめてしまう子も。また、第2志望校に行きたくない気持ちが、第1志望校の試験のプレッシャーにもなります。第2志望であっても、「この学校なら行ってもいい」と思える学校を選ぶのが、志望校決定の鉄則です。

1 情報は学校より塾で

学校による受験指導が難しくなっています。かつて行われていた業者による校内一斉テストが、「偏差値教育に傾く」という理由で撤廃され、受験指導のデータを学校がもてなくなったからです。一方、塾は適切な進路指導に必要な偏差値などの情報や、各学校が実施する複雑な受験制度なども把握しています。今や塾で進路相談をし、学校にはその結果を伝えるという流れが一般的。市販されている受験情報誌や、高校のホームページなども活用します。

2 夫婦で意見を一致させておく



子どもに合った学校選びのためには、両親がしっかり関わっていくことです。男性、女性はそれぞれ目線が異なるため、1つの学校について、より多角的に検討できるからです。しかしそこで夫婦の意見が食い違っている場合は、子どもはどちらの意見を聞いていいのかわからず混乱しますし、親の言葉を信用せず、言うことを聞かなくなってしまうかもしれません。まずは夫婦で、今後の教育方針も含めて徹底的に話し合い、方針をすり合わせておきましょう。

6 受験勉強は中3の春から

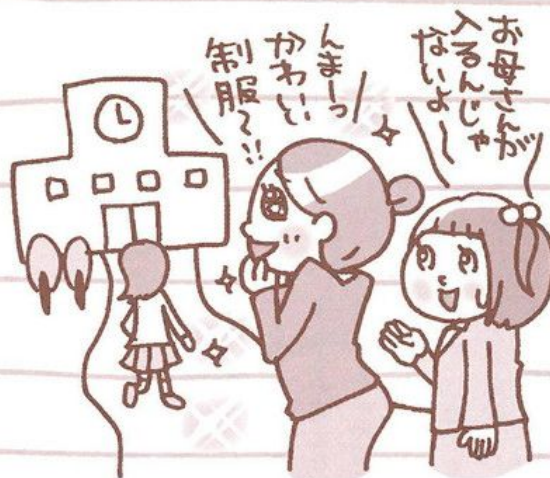
塾に通っていると、中3の夏休みから受験勉強が本格化し、勉強量が増えます。しかし、塾などで渡されるテキストの量は増えていても、本人はあまり気合が入っておらず、秋、遅いと冬になってようやく本気で勉強し始める子もいます。冬休みが明けたころ毎年のように「早く勉強を始めておけばよかった」と泣く子がいますが、こうなると手の施しようがありません。中3の春から意識的に受験勉強を始めると、余裕をもってこなせるでしょう。

7 ミスした問題を集めた復習ノートをつくる



受験勉強は復習を中心に進めると、とても効果的です。繰り返し見直すことで、学力を定着させることができるからです。具体的な方法としては「復習ノート」がおすすめ。まず問題集やテストなどで間違った問題をノートの表ページに書き、裏ページにその問題の解答、気づいた点、間違ったところなどを書いておきます。これを何度も見返すことで、問題の解き方、間違ったポイントを確認。効率よく学習が進められるというわけです。

4 中2から、志望校の見学を



高校の学校説明会は、中3の春ごろから始まります。したがってその前までに、学校についての情報は塾やネットなどを通じて集めておきたいもの。できれば、中2ごろから学校見学をしておくと、中3の春にはすでにかなり方向性が固まるので、勉強のスイッチも入りやすくなります。見学時は生徒たちの表情が明るいかなど、学校の雰囲気をチェック。説明会ではいいところばかり紹介されますので、学校のカラーがより見える文化祭に行くのもおすすめです。

5 夏休みは苦手を克服するチャンス

夏休みに効果的な勉強をするためには、中3の1学期までに「自分は何が苦手か、弱点はどこか」を把握しておきましょう。そして夏休みには、集中的に弱点を克服するための勉強をします。具体的に目標を決め、たとえば「二次関数の応用問題を得意にしよう」などします。達成できたかどうかは、塾などのまとめテストなどで確認。「毎日単語を100個覚える」といった漠然とした目標ではなく、具体的にどの「苦手」を克服するかを明確にしましょう。

受験期に、

それまでの親子の問題が噴き出します。

受験期は親子の関係を 見直すチャンス。

高校受験において子どもの進路を考えると、勉強についての考え方や世の中のとらえ方など、親の基本的な姿勢が改めて問われることにもなります。

たとえば、あなたは「なぜ勉強しなければならぬか」という子どもの疑問に、きちんとした答えをもっているでしょうか。今や一流大学を卒業しても、安定した生活が保障されるとは限らない時代。親自身が考えをもたず、ただ「もっといい成績を」と言うだけでは説得力などありません。勉強とは自分の将来のためにするものです。

不安定な社会情勢だからこそ、目に見える成績を追いかけるのではなく、さまざまな経験を通して将来の夢への気づきを与える努力を惜しまない、そんな親の姿勢こそ必要なのです。

また、たとえば進路を選ぶときに「〇〇高校ぐらいには入ってほしい」などと、親の考えを押しつけてしまうのも問題です。たとえ、それまで子ども



の考えを聞かず抑え込んでこられていたとしても、思春期ごろにはその抑えがきかなくなり、一気に爆発してしまうのです。もちろん、親の思いを伝えておくことは必要です。「こういう道を選んでみてはどうか」など、経験を積んだ親だからこそ言えるアドバイスもあるでしょう。しかしあとは、少し引いて見守ってください。思春期は、親が子どもの考えを認め、受け止められる関係こそが大切です。

このように、受験期は、それまでの親子の問題点が一気に噴き出す時期。これを前向きにとらえ、親子の関係を見直すきっかけにしたいものです。☑

素直な男子が突然キレル、 家庭内暴力が増えています。

高校受験のストレスなどが引き金になり、突然、家庭内暴力に走る子どもも増えていきます。家庭内暴力といえば、日ごろから反抗的で、少し粗暴な子がやるイメージです。しかし最近では、それまで「いい子」だった男の子が突然暴力をふるうようになることが多く、新たな問題となっています。

それは特に、しっかりとものの母親と素直な男の子という組み合わせに多く見られます。小学生ごろまでは、息子の身の回りのことはすべてママがやり、子どもは従順です。実際、わが子に手をかけすぎる親は増えていて、たとえば、小学校高学年でも衣服の着替えは「親がやったほうが早い」と、靴下まで履かせる母親が現実存在します。

しかし、思春期になれば自我が芽生え、いつまでも親の言うこと



を聞いていることに対し、ストレスを感じるのは当然。そして、ある日突然、キレルというわけです。学校や塾ではいつも通りの「いい子」なのに家族には暴力をふるうのも、このようなケースに見られる特徴。「近すぎる親子の距離」こそが、家庭内暴力の原因になっているといえるのです。